

日吉ダムにて、異常洪水時防災操作を実施

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（京都府南丹市日吉町）流域では、前線の活動に伴う降雨により、7月3日22時から6日4時までの総雨量が314 mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この洪水に対して、日吉ダムでは7月4日17時から防災操作を開始しました。

この降雨により、ダムへのこれまでの最大流入量は、5日23時50分に毎秒1,258立方メートルとなりましたが、最大放流量を毎秒150立方メートルと一定量にしてきました。（最大88%のカット）

一方、6日4時05分には、異常洪水時防災操作（※）開始水位（200.2m）を超え、これ以上貯留を続けると、ダムの洪水の貯留量が洪水調節容量を使い切り、満水位を超えるおそれがあるため、4時05分に異常洪水時防災操作を開始し、ダムへの流入量に対し、これまで抑えてきた放流量を流入量まで徐々に増加させる操作を行います。ダムの下流においては十分ご注意ください。なお、最終的には、ダムがない状態の河川の流量となり、ダムがない状態よりも被害を増大するような放流を行うわけではありません。

また、広い範囲で大雨となっておりますので、最新の防災情報を確認して安全確保に努めて頂くよう重ねてお願い致します。

※異常洪水時防災操作：洪水調節を行っている場合において、更に洪水時最高水位を超える予測の場合に、ダムからの放流量を流入量まで徐々に増加させる操作
※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。